

第3回ウォーターフロント地区（中央ふ頭・博多ふ頭）再整備に関する

専門家懇談会議事要旨

1. 議題 (1) 『ウォーターフロント地区（中央ふ頭・博多ふ頭）再整備の方向性』について
(2) 今後の取組みについて意見交換

2. 日時

日付：2014年8月11日（月）

時間：13:30～15:30

3. 専門家の主な意見

- (1) 『ウォーターフロント地区（中央ふ頭・博多ふ頭）再整備の方向性』について

- ・「(1) 今後の進め方」のなかで、前段の3つ、「段階的に進める」、「施設の強化」、「中長期的に」とあるが、これはどちらかというともハード整備に近い。後半の「民間の活力やノウハウの活用」、「まちづくりの仕組みづくり」、これはソフト整備。前段の3つについては地図にプロットされていて具体的になっているが、民間の活力、ノウハウといったソフトの部分は具体的になっていない。短期的な取組みに具体的に入れた方がいいのではないか。
- ・資料3のP.23、「自律的・持続的～」とあるが、全体的に全く見えてきていない。市民にとっての博多港という視点が抜けていることから始まったと思い、大変期待していたが、最後のP.23にだけ落とされてしまって非常に残念。
- ・再整備の方向性全体で見るとP.23にだけ楽しい写真があって、他は楕円形が重なったようにしか見えない。P.16辺りも写真が入って市民に分かりやすい具体的将来イメージが入るといい。
- ・唯一将来をイメージできる絵があるのは方向性のP.23の写真だが、こういうものがどこにできるか伝わってこないのも市民にはもっと夢のある絵を描くべき。
- ・今回のアウトプットのなかで、市民に分かりやすいかたちでパブリケーションしていくときがあると思う。福岡の顔を見せて、一言二言でセールスできるようになると、それが福岡らしさに繋がる。
- ・日本の都市計画は平面的なものでお茶を濁す傾向があるが、世界はアーバンデザインの都市計画のレベルになっていて、市民に分かりやすいように鳥瞰図などのイメージ図がついている。それにより市民の方も意見が言いやすくなり、実現プロセスを監視する意味も持っている。
- ・唯一将来をイメージできる絵があるのは方向性のP.23の写真だが、こういうものがどこにできるか伝わってこない。市民にはもっと夢のある絵を提示するべき。
- ・入り込み客数からみても、アジアに近い、駅・空港からも近い点から見ても、おそらく博多港は世界で一番進んだ港になりえるが、イメージがほとんど伝わってこないのも絵の描き方を工夫するべき。
- ・調整の産物としてのアウトプットはこういう形でいいと思うが、この後は外に対して、世論に訴えかけて、賛同をもらうようなアウトプットにならないといけない。市の外や、投資先、ここに来て遊んでみようと思っている人にアピールするという観点でアウトプットを作成するべき。
- ・大博通りを抜けたところがシンボルになるが、今はイメージするものもないので、市民も委員も先が読めないのも、シンボルを具体的に夢としてCGを使ってでもいいが、つくればいいと思う。

- ・ホテルや民間企業の進出をしてもらうにあたって、事業者にとって魅力的なブランドを目指すのであれば、タイトルが地域を表すようなものになればいいと思う。
- ・P. 23 の中長期にかけての取組みについての具体化はいろいろ検討しているとは思いますが、実際にスケジュールを想定して取り組むべき。エリアマネジメントやアーバンデザインセンターをいかに福岡のウォーターフロントに入れていくかがポイントになる。
- ・将来イメージには博多ふ頭も入っているが、博多ふ頭に何を手当するのかと思う。ベイサイドプレイス博多の今後についても載っているかと思ったが、方向性には載っていない。具体的なものを出していくべきで、出せないのであれば海外でやるような複数案を示しながら、絞り込んでいくような出し方もある。
- ・両方のふ頭を入れている意味がはっきりしない。片方だけに気を取られて、周りに波及させる手立て、どういう機能を入れるのかが載っていないと思う。

(2) MICE・賑わい

- ・NYなどの一流ホテルは、宿泊客の国旗を玄関に掲げる。30カ国の客が来るならば30カ国の国旗を入港の際に掲げる。そういう形でお金をかけなくても夢のあることをやるべき。
- ・新たな需要という福岡市にないもの、本来福岡市にあればいいものがあると思うので、そういうものを取り込むのも手。
- ・海辺の冬は人が閑散とするが、スポーツ施設のような、冬でも集まる大型の市民が運営する施設をつくってはどうか。いろいろな情報を聞きながらやっていくべきで、それこそエリアマネジメントの核になるのではと思う。
- ・MICE以外のところでどれだけできるか、それに力を入れる取組みを優先してやってもらいたい。
- ・シーフードセンターや道の駅むなかたのようなものをいれたらどうか。
- ・MICE施設は全国10箇所以上で増設、新設、増床等の話があり非常に活発。九州だけで言うと、北九州はスポーツ、展示会場、国際会議場。長崎は用地買収が整って、MICEゾーン形成していき、併せてウォーターフロントも再整備していく。熊本も、一部民間の力ではあるが、再整備している。鹿児島も天文館の付近で再整備をしたいという話が出ている。
- ・天神、博多とパイの取り合いをしないためには、ウォーターフロントの特色である「水」というものに関連付けていけばいいのではないかと思う。水と市民、水とスポーツ、水とアートなど、例えばディズニーシーにある水をスクリーンにして映像を映すようなもの。あれは水がないと出来ない。そういうものを時々やればおもしろい。
- ・施設だけで人が呼べるわけではない。ゾーンあつての施設。九州の中で福岡につくる意味や意義、ゾーンとの親和性をさらにうまく説明していかないといけないし、九州のなかでの位置づけ、カラーを出し、他都市との違いを説明できるようにすることも必要。
- ・MICE機能は福岡の一人勝ちになるが、問題は賑わい。市民がどれだけ来るか、地元の人が行きたいまちをつくる。ボストンにしても地元の人のためのウォーターフロントづくりになっていて、やはり地元の人が行かないところには賑わいはできない。博多港の一番の課題は、常に地元の人が来てくれるような魅力をうまく出していくこと。その議論がまだ地に足が着いていない。
- ・長崎のランタンフェスティバルは中華街で既に行われていたものを広げたもの。福岡でも過去の歴史をみて、今はなくなってしまったものを新しくウォーターフロントで行うといいのではないか。

- ・北九州のチャチャタウンは毎日イベントをやっていて、無料でアーティストが活動している。賑わいがでてくる。これは育てるという感覚で、ウォーターフロントに福岡の若いアーティストとして成功する練習の場所をつくったらどうか。
- ・博多駅に人は来るがそこからほんの 10 分のウォーターフロントにほとんど人が来ない、尚且つ市民も地下鉄があるのに来ない。交通手段がないから行かないではなく、やはり魅力がないということを見極めた上で、どうすれば人が行くようになるかという戦略を議論する必要がある。
- ・都心部の構想の中で天神・博多駅・ウォーターフロントの 3 地区の構造、博多港の機能については明白に出ており、人流も確実に増える。問題は市民が行きたくなる場所かどうかということであり、これを議論する必要がある。

(3) 交通

- ・交通アクセスは重要で、カッコいいバス、100 円が無理なら 150 円でもいいが、そういうのを入れていくべき。

(4) 回遊

- ・回遊するとなるとソフト的にこの 3 地区を回遊するものに対して、共通のポイント制や回遊パスなど、それを各事業者が負担して、3 地区が連携して回遊促進をするようなこともやるべき。
- ・那の津通りがあり高速があり、市民が行きにくいと抵抗感を感じているが、その議論が出来ていないと感じた。
- ・市民あるいは都市圏の人をウォーターフロント地区に集めたいというのがあると思うが、天神・博多とのパイの取り合いにはならないようなストーリーをつくらなければならない。他の所から取るのではなくこれまでよりプラスもう一カ所回遊してもらおうという視点と、いかに人を集めるかではなくいかに回遊してもらおうかという視点がある。

(5) 港湾（人流・物流）

- ・インバウンドは九州 126 万人、2020 年に 350 万人の予測、国が 2020 年に 2,000 万人。国は 1.8 倍、九州は約 3 倍の予測をしている。この数を増やすとなると、やはりクルーズ船ということになる。日韓の移動は成熟しており、人口的にもこれ以上増えない。しかし香港は昨年 90%伸び、台湾は 35%伸びた。そう考えるとクルーズは重要。

(6) パブリックコメント等

- ・パブリックコメントの意見はさらに精査して、今までとはさらに違う意見が出てきたというようなことをまとめてもらえれば、いいヒントになると思う。
- ・パブリックコメントの最後のまとめ方だが、“その他”に分類しているものは内容をきちんと読み込んで、意見が埋没しないようにカテゴリー分けするべき。
- ・早い時期に今後どうなるのかというのをより多くの方にアピールしてもらいたい。でき上がってから市民に見せるのではなく、ウォーターフロント地区が変わっていくプロセスも市民の方と一緒に楽しむ、そういう仕組みがいいと思う。
- ・市民が楽しめるような仕組みをつくりながら、市民が足を運ぶような、そういうものがあればいいと思う。
- ・半径 3km でリピーターをつくるべき。半径 3km 内でリピーターが増えればそのうち外からも人が来る。地元の人が楽しくてリピーターになるような所をつくるのが市民のためになるし、その繁栄にもなる。

- ・パブリックコメントの意見を見ると、市民の方もいろんなキーワードを出している。目標についてはかなり網羅されているが、これを具体的に実現させるプロセスが重要で、パブリックコメントの意見が実現できようしっかりと対策、方策を練るべき。

(7) 実現に向けた取組み

- ・海外からの投資は、ここが将来どうなるかが重要だと思うので、絵をきっちりと描いて発信して行かないと海外からの投資は来ないと思う。今後、計画ができ上がって徐々に情報公開をしながら、そこに楽しめる仕掛けを入れていければいいと思う。
- ・ウォーターフロント地区に今後新たな核ができると、都市構造が変化して、これまでよりも状況が良くなる人ばかりではなく、悪い方向に変わる人もいるだろう、そういった人がでてきたときに話がスムーズに進まなくなるという視点で整理していくべき。
- ・コンベンションもこれまでお断りしていたが、施設ができ、今後増えるとするとういった人たちに何が出来るかという視点。なるべく単なるパイの移動だけでは終わらないようなことをやると比較的スムーズにやりやすいと思う。
- ・ウォーターフロントの再整備をきっかけにして、福岡の未来を語る場にしてもらいたい。未来を予見し、過去を紐解いて未来に活かしていく。方法論としてプロデューサーに任せるのも一つで、行政は市役所内で完結しようとするが、行政はバックアップにまわって、新しい発想を世界から集めることも市にとってプラスになる。
- ・この地区はポテンシャルが高いが日常的に訪れる空間にはなっていない。MICE だけではだめ、それ以外を段階的にやっていく。来街者だけでなく、市民が日常的に繰り返しくるような場所にどれだけできるのかということになる。
- ・この地区は、20 年前から再開発を進めてきたが、取り巻く環境は大きく変化している。今回の取組みを契機にしながらも、ウォーターフロントを物流、人流、にぎわい、あるいは居住、複合地区にして、スタートする。そのときに結局段階的に、長期的に進めていくので、その仕組みや推進体制をきちんとつくりたいといけない。日本は今そういうものをつくる流れがある。そのなかに民間の知恵や活力をうまく取り込む。大阪のグランフロントなど、それをモデルにして取り組んで行くのがこの中長期的取組み。
- ・2 期展の拡張は一つのきっかけだが、先に 2 期展拡張を決めて、逆算していくと、どうしてもどこかでひずみが出る。本当に福岡市民のためにどういうタイミングでハードをつくるか見極めるべき。ある程度余裕を持ったうえで二つのふ頭の長期的イメージを市民に出して、そこに民間プロデュースも入れられるぐらい余裕を持たないといけない。余裕を持った上でスタートし、中長期的計画、推進体制をつくるべき。

(8) その他

- ・日本の企業のなかで新しいことをどんどんやっている企業がある。20 代 30 代の社員を集めて早送り SF 映画を見せ、そこから未来を見つける。その SF の中には車より自転車がよく出てくる。他都市や福岡はまだ車中心の社会だ。環境に優しい乗り物をメインに出していくような、もっと先の未来を考えて実験都市をやってもいいのではないか。
- ・未来には家の中にロボットが一台ずついて、バーチャル的には人口は減らない。未来を考えるとペットの次にロボットが入る。新しい未来を考えるのであれば、こうした要素を取り入れていった方がいい。